

宗教活動のもつレクリエーション要素について

(レクリエーションの生活化からのアプローチ)

田 中 一 行 兵庫県立尼崎南高等学校 良元分校
宝塚レクリエーション協会

生きがい 人間交流 宗教活動 自認性 レクの生活化

はじめに

世にレクリエーションとよばれる活動は数かぎりなくある。レクリエーション事典(日本レクリエーション協会編)には、10領域にレク活動を分類し示してある。

1	遊戯およびゲーム	伝家あそび、グループゲーム、テーブルゲーム、クイズ、パズル手品
2	スポーツ	陸上競技、運動会、体操、行進、ゴルフ、格闘技、球技、水泳、ダイビング、スキー、スケート、ボート、ヨット
3	野外活動および自然研究	キャンプ、ハイキング、サイクリング、登山、オリエンテーリング、ホスティング、狩猟、つり、ドライブ、昆虫採集、植物採集
4	舞踊(ダンス)	日本舞踊、フォークダンス、社交ダンス、モダンダンス、ポピュラーダンス、民謡、スケートフォークダンス
5	演劇的活動	アマチュア演劇、人形劇、即興劇、パントマイム、詩の朗読、映画鑑賞、8ミリ映画
6	音楽的活動	レクリエーション・ソング、ポピュラー音楽、邦楽、音楽会、器楽、合唱、オペレッタ
7	美術・工芸・手芸工作	絵画、書道、版画、写真、ぬいもの、いけ花、手芸、木工、陶物、しじゅう、造花、紙工作
8	自己啓発活動	読書、創作、俳句、短歌、詩作、周遊、手紙、日記
9	社交的活動	パーティー、ついで、年中行事、スピーチ
10	収集活動その他	切手、コイン、スタンプ、民藝品、郷土玩具

表：日本レクリエーション協会発行「レク指導者「指導の手引き」より

この分類は、レクとは何かを追いもとめる諸説を集大成したものである。その元にあるレク活動の条件は、次のようなものに代表される。

- ・ 余暇に行なわれる活動
- ・ 自発的活動
- ・ 目的的活動
- ・ 健康的な活動
- ・ 創造的な活動

今、日本レクリエーション協会では「レクリエーションは人間の生きる喜びである」というスローガンをかけ、レクリエーション運動が進められている。その方向として組織化・空間化・制度化・生活化の4点が示されている。前3点は別として、生活化を考え進めると大きなカベに当たってしまう。それは、自分ではレクリエーションだとは思っていない活動が他人から見るとレクリエーションであったり、だれが見てもレク活動とは思えない活動がその人にとっては生きる喜び=生きがいであったりする。レク活動の条件には上にあげたもの以外に、その活動自体を自分自身でレクリエーションだとあつちと思つている(自認性)を問われることが多い。しかし、世の中には、レクリエーションだと自認することでその活動が生きがいではなくてしまうという現象もある。

レクリエーションを論ずる時、レクリエーションを生きる喜びとするならば、自分ではレクとは思っていないけれども、だれもレクとは思っていないけれども、その活動を行なうことによって、その人の生活にメリハリができ、心のよりどころ

となり、健康につながる活動があることにも目を向け、研究を進める必要があると思ひ、今回は宗教活動に焦点をあて、私の思う所をのべてみようと思つたわけです。しかし、一口に宗教活動といってもその範囲は非常に広く、私の知り得る宗教活動はせまい範囲でしかないと思われまふので、この論文を一般化するのは無理なこともわかっています。とにかく、未熟者の思いつきに多方面からのご意見がうかがいたく、発表にふみ切つたしだいであります。

我が両親にみる宗教活動

両親は、日蓮宗のある会派に所属している。その宗教法人の本部は大阪にあり、母の実家のそばに位置する。母方の家系は元々この信者であり、結婚後、父も信者になったようだ。

◎ 具体的な活動

毎日 朝・夕のおつとめ(約1時間お経をあげる)
毎月 8日 19日 28日 本部に参拝
盆 正月 節分 彼岸 本部に参拝
毎月 6日 祖父の供養、母方の祖母が我が家に来る
毎年 1月第3日曜日 お伊勢まいり
7月後半3泊4日 山梨県身延山 七面山に参拝

◎ 活動の分析

朝・夕のおつとめは、生活にリズムを与え、姿勢を正し声を出すことで、大いに健康に役立っていると考えられる。

定期的に本部に参拝することは、生活に変化を与える。そこには、人との交流があり話し合いがある。また、あの人に合えるという楽しみや、今日はあの人どうしたのかしらという心配もある。

お伊勢まいりや身延山参拝は、目標であり、試練となる節目である。身延山・七面山への参拝は、歩く距離も長く、お題目を唱えながら山道を登るのである。信者には高齢者も多い。その人たちが皆そろってあるくのである。この参拝が近づくと、両親はよくハイキングに行つてトレーニングを行なっている。そしてまた、この参拝は旅であり、年中行事になっている。

どの活動でもお経をあげるのだが、その時は一心にそのことだけを考えている状態であると思われる。

親戚どおしの交流は、ほとんどが宗教活動がらみである。正月に親戚が顔をそろえるのは、本部に参拝したついでだ

し、祖母は毎月6日に祖父の供養に来ることとは別に、我が家に来ることを楽しみにしているようである。

レクリエーションの生活化を進める際、家族や親戚どおしの交流は見のがすことのできない中心課題である。その交流をささえているのが宗教活動なら、宗教活動もまた見のがすことはできない。まして、親たちにとっては宗教活動が生きがいになり得ている。

布教活動員にみるレク要素

屋間、家にいるといろいろな宗派の布教員がたずねてくる。「住みよい世の中にするために」とか、「世界平和のために」とか・・・、自分たちと志を同じくする仲間を集めるために、自分の時間をささげ、各家を訪門しているのである。

そこには、言葉による人と人との交流がある。押し売りのような布教ではなく、相手の話を聞こうとする態度の方が多いことには感銘を受ける。色々な人と出会い、色々な人の話を聞く中で自分自身をみがいておられるのだと思う。聞いてみると、多くの布教員たちが、色々な人と交流できることを楽しんでいるということだ。

布教とは、人間交流であり、仲間づくりにほかならない。

その他の宗教活動にみられるレク要素

私の知る範囲内でもレク要素の多い宗教活動は多々ある。それは、札所めぐりやまつりに代表される。

札所めぐりは旅であり、目標の神社仏閣をめぐるってひとつひとつお札を集めることは、これ収集の喜びである。

まつりは、目的や形態は様々であるが、何らかの宗教と結びついている場合が多い。豊作を祈ったり、豊漁を感謝したり、霊をなぐさめたりするために酒をくみかわし、歌い、踊るのである。悪い言い方をすれば、それらをダシにつかい、日常の場面をわすれ、まつりの世界（レクの世界）にひたっているのである。法事にもその要素があると思われる。○○の何回忌という事を口実に親族が一同に会する。そういう口実でもないかぎり親族一同の交流はできないのが現状なのである。

また、神の名の元に2人の将来を誓う結婚式も、今やまったくレクリエーションそのものという見方ができるのではないだろうか。

レクによるアプローチの限界

私はここまで、何とかして宗教をレクリエーションと結びつけようとしてきたが、どう考えてみても無理な部分が存在する。それは、葬式の場面である。この場面には、レクリエーションという言葉では近づくことのできない緊迫感がある。

同様に、修行中の僧侶などが、断食をしたり火わたりをしている場面も、レクリエーションという感覚では近よりたい。

元来、宗教とはこのようなものだったのかもしれない。それが、平和な世の中になり、宗教活動自体がレクリエーション化してきたとも考えられる。

まとめと今後の課題

レクリエーションによるアプローチに限界はあるにせよ、宗教活動の中には多分にレク要素がふくまれている。しかし、そのほとんどはレクリエーションだという自認性はなく、他の信念や宗教を心のよりどころとする気持ちから出たものである。

逆の見方をすれば、レク指導者にとってレクリエーションは、心のよりどころであり、信念である。そうなると、レク指導者はレク布教家であり、レクリエーションもまた宗教といえることができるのではないだろうか。

「レクリエーションは人間の生きる喜びである」というスローガンの元にレク運動を進めていくなれば、自認性のないレクの存在にも目を向け、研究を進める必要性を感じる。宗教がレクリエーションであろうとなかろうと、レクの生活化・個別化を進めていく上で、大きなカギをにぎっているものと思われる。それは、宗教だけでなく、今の世の中ではセックスとレクリエーションの関係も見のがすことのできない問題だと考えている。